税の本質に迫る

米沢市立第二中学校３年　　伊藤　颯眞

「税金は高いなあ。」
「税金を払うのは、面倒くさいなあ。」
そういう大人達の声が、日常生活の中で僕の耳に入ってくる。僕自身は、買い物をする時に支払っている消費税以外、税金の意義や仕組みを詳しく考える機会がなかった。

しかし、僕にとって、税金に対する考え方が大きく変わる出来事があった。昨年、僕は税務署で勤労体験学習を行うこととなった。なんとなく堅苦しいイメージがあり、特に興味を持っていたわけではなかったが、税金について初めて知ることが沢山あった。その中でも特に心に残ったことが二つある。

一つ目は税の平等性だ。税には、消費税、所得税、法人税、住民税など沢山の種類があり、支払う金額は様々である。しかし、それら全ての税金は、国民全員に平等に求められている。例えば消費税。これは国民全員が、買い求めた商品に平等に課せられた税率で支払うという点で平等である。一方、所得税は所得の大きさに応じて税率が変化するため、所得額によって生じる富裕と貧困のバランスがとれるという面で平等なのだ。職員の方は、「税の徴収については、国民全員が公平に受けているものであり、不平等は存在しない。」とおっしゃった。僕は、この事実をもっとたくさんの人に知って欲しいと思った。

二つ目は税の重要性だ。税金がなくなると一体どうなってしまうのか。まず、警察や消防、救急車の利用が有料となってしまう。道路は整備されずに町中がゴミで溢れる。そして、僕達が義務教育として受けている中学校の授業も豊かな家庭の子供達だけの特権となってしまう。このことから、税金は、僕達の生活を安全に、より豊かにしてくれることがわかる。また、それは、僕達が税金によって平等に恩恵を受けていることの表れでもある。

僕の住む米沢市では、小中学校の給食費完全無償化や医療費の助成があり、僕自身も正に税金に支えられて生活していることになる。

国民の生活を守ってくれる税金。それを国民が咎める意味があるだろうか。近年、消費税が十パーセントに上がり、不満を訴える人々が増えている。しかし、その背景には「少子高齢化」が問題であることを大多数の人々が知らない。僕達人間は感情に流され、物事を深く正しく理解しようとしない。そして納税の義務を果たさない人もいる。「自分さえ良ければ」という考えをなくさねばならない。

今、税務署では、小学校で「税の授業」を行ったり、中学校の「勤労体験学習の受け入れ」をして下さったりしている。そのお陰で僕は税の本質を理解できた。税の大切さを納税者の大人に深く理解して頂くことは勿論だが、幼い頃から「税によって守られていること」を学ぶ機会をつくることが大切だと思う。